【第1問】

問1

企業経営に関する財務分析が進展するにつれて、時系列によるデータとそれを基礎にする分析が重視されるようになってきたが、たとえ損益計算書を中心とする動態的分析といえども、1年間に限定された動きの分析に過ぎない。成長性の分析は、企業経営活動のダイナミックな傾向もしくは動向を把握するために大きな意義があり、その方法は常に2会計期間以上のデータを比較することに特徴がある。

問2

成長性の分析は、基本的に2期間以上のデータを比較することであるが、どのような指標を比較するかによって、おおよそ次の2つの方法がある。一つ目は、売上高、付加価値、利益額、資本、従業員数等の実数そのものを比較する方法である。二つ目は、総資本利益率、売上高利益率、回転率等の比率を比較する方法である。比率表示の指標は、現実の企業規模や利益等の絶対額が隠れてしまうため、多くは、実数表示の指標を対比して、その成長性を測定する傾向にある。しかし、1企業内の分析であれば、比率の比較によって、率で何ポイント上昇したというような表現の方が理解しやすい場合もある。

【第2問】

記号(ア～ヘ)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
コ	ク	ネ	シ	サ	オ	セ	タ	ソ	ウ	キ	エ	ノ

【第3問】

(A)	47,900	百万円	(百万円未満を切り捨て)
(B)	7,800	百万円	(同　上)
(C)	381,500	百万円	(同　上)
(D)	508	百万円	(同　上)
未成工事収支比率	101.49	%	(小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)

【第4問】

問1	36.00	%	(小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)
問2	15.00	%	(同　上)　　記号(AまたはB)　A
問3	104.04	%	(小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入)
問4	16,000	千円	(千円未満を切り捨て)
問5	2,000	千円	(同　上)

【第5問】

問1

A　完成工事高キャッシュ・フロー率	2.16	%	（小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入）
B　総資本事業利益率	3.18	%	（同　上）
C　立替工事高比率	53.86	%	（同　上）
D　受取勘定滞留月数	7.13	月	（同　上）
E　固定比率	89.70	%	（同　上）
F　配当性向	30.34	%	（同　上）
G　労働装備率	19,628	千円	（千円未満を切り捨て）
H　自己資本比率	28.60	%	（小数点第3位を四捨五入し、第2位まで記入）
I　借入金依存度	17.14	%	（同　上）
J　資本金経常利益率	43.65	%	（同　上）

問2　記号(ア～ホ)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
カ	ク	シ	ア	エ	オ	ニ	コ	ウ	ホ

※7と8は順不同